

# 十和田市事務事業評価シート

<b>担当課名</b>	都市整備建築課
-------------	---------

**【事務事業の種類と位置づけ】**

市総合計画 実施計画番号	6		整理番号	31
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」			
施策の展開方向	生活環境の整備			
事務事業名	公園遊具の安全点検			
事務の種類	自治事務	根拠法令等		
関連する事務事業				

**【人件費の推移(概算)】**

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	8	8	8
日日雇用職員	人件費(千円)	216	216	216

**【事業費の推移】**

	21年度実績	22年度実績	23年度計画
事業費合計(千円)	420	420	420
うち一般財源	420	420	420
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

**【事務事業の概要】**

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	都市公園に設置されている遊具
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	点検により、遊具の部材ごとの耐用年数と破損、腐食、塗装の剥がれや錆などの修繕計画を立て、早期修繕を実施して遊具の事故を防ぐ。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	公園遊具の直営による毎月点検と専門業者による年1回の安全点検業務委託

**【指標】**

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	直営(目視)による都市公園遊具の安全点検			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		回/年	9	9	9
	活動指標名	専門業者による都市公園遊具の安全点検業務委託			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		回/年	1	1	1
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	直営(目視)による都市公園遊具の安全点検			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		回/年	9	9	9
			9	9	9
			100%	100%	
	成果指標名	都市公園遊具による事故の発生日数			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		件	0	0	0
			0	0	0

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	31
計画No	6

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		市民から子供たちに安心・安全な遊具の管理が求められている。都市公園は設置自治体の管理が義務付けられている。
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	5	成果向上の余地 1 / 6
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		近年、毎月(3~11月)点検と専門家による年1回の点検で遊具の事故は発生していない。ただし、作業員の雇用がない冬季間は実施していない。
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		遊具の修繕計画を策定するための専門業者による安全点検業務委託は極限までコスト削減している。また、直営作業員の点検は維持管理業務と調整しながら実施している。
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		都市公園のため特に無し。
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

公園遊具による事故の防止のため、点検業務を継続実施する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

冬季間の遊具点検を実施に向けて検討する。